

参加者の皆様へ①

- ✓ 記録や取材のため、会議の様子を撮影、録音します。
- ✓ 動画の一部は、後日、松戸市公式YouTubeで配信します。
- ✓ 写真の一部は広報に使用する可能性があります。
- ✓ 写りたくない方は、お近くの事務局までお声掛けください。

参加者の皆様へ②

- ✓ 参加者が写真を撮影される場合は、他の参加者の個人を特定できない写真となるようにご配慮をお願いします。
- ✓ 十分ご配慮いただければ、その写真をSNSへ投稿していただいても構いません。
- ✓ 参加者による動画の撮影、録音はご遠慮ください。

傍聴者の皆様へ①

- ✓ 開会前、会議中、閉会後に関わらず、予め定められたエリアでの傍聴をお願いします。
- ✓ 会議中は、発言、私語、拍手等の意思表示を伴う行為は行わないようにお願いします。

傍聴者の皆様へ②

- ✓ 記録や取材のための撮影に、傍聴者も写り込んでしまう場合があります。
- ✓ 写りたくない方は、お近くの事務局までお声掛けください。
- ✓ 傍聴者による撮影や録音は、報道・記録など主催者の許可がある場合以外にご遠慮ください。

会場の皆様全員へ

- ✓ 地震、火事等の災害時には、会場のアナウンスやスタッフの指示に従い、落ち着いて行動してください。

松戸市環境未来会議2024

第6回

提案書を取りまとめる

市民を巻き込むゼロカーボンアクションを検討する

2024年10月20日（日）

13:00～17:00 アートスポットまつど



開 会

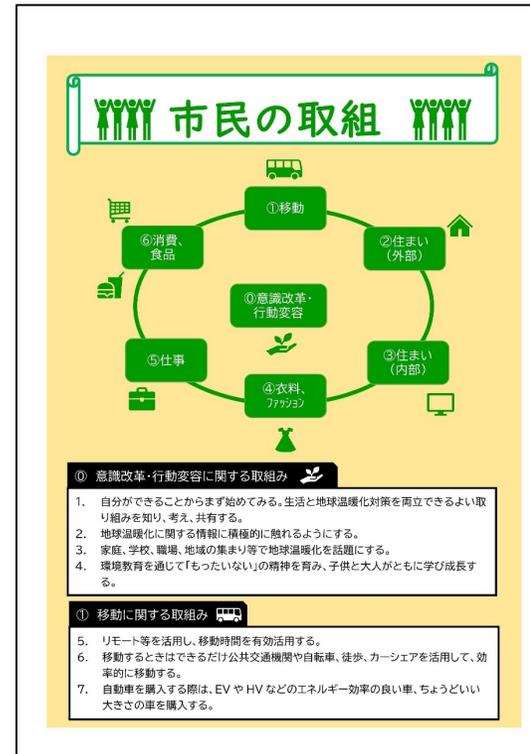
【会議のゴール】

✓ 「ゼロカーボンシティまつど」の実現に向けた市民、事業者、行政の取り組みをまとめます。

【成果の活用方法】

✓ 取り組みの内容を精査したうえで、「市民行動プラン」や「地球温暖化対策実行計画」に反映していきます。

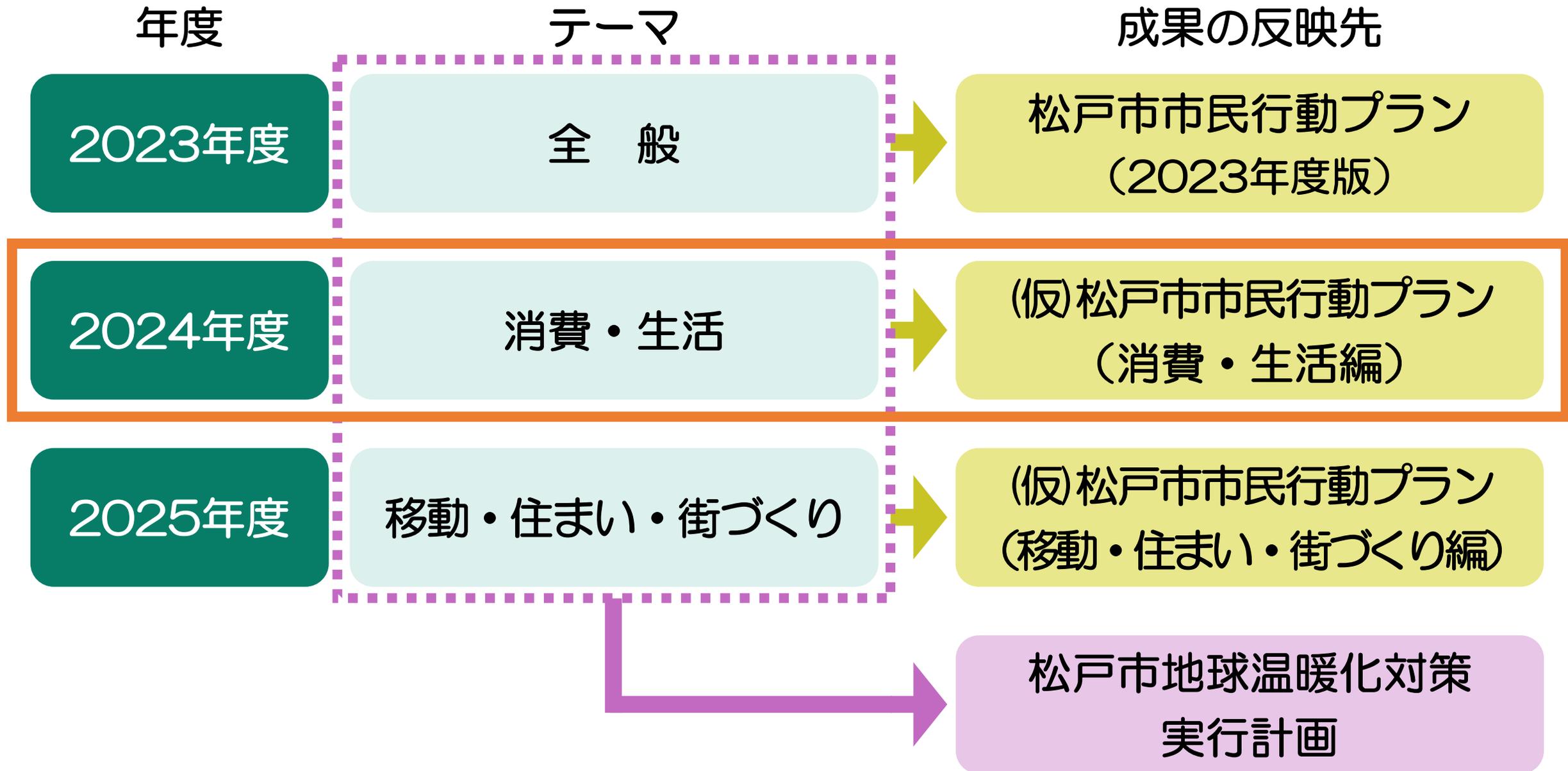
松戸市市民行動プラン

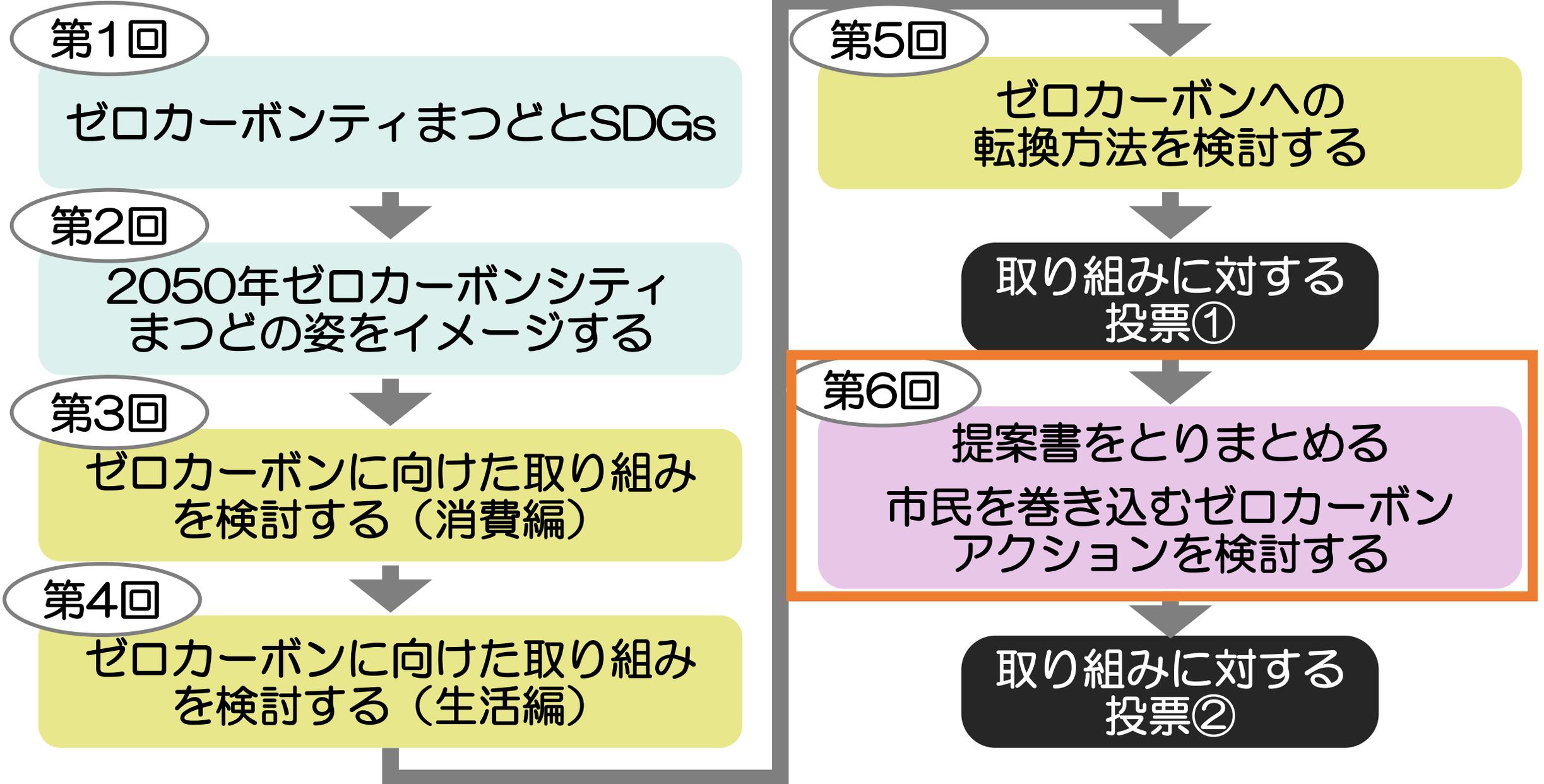


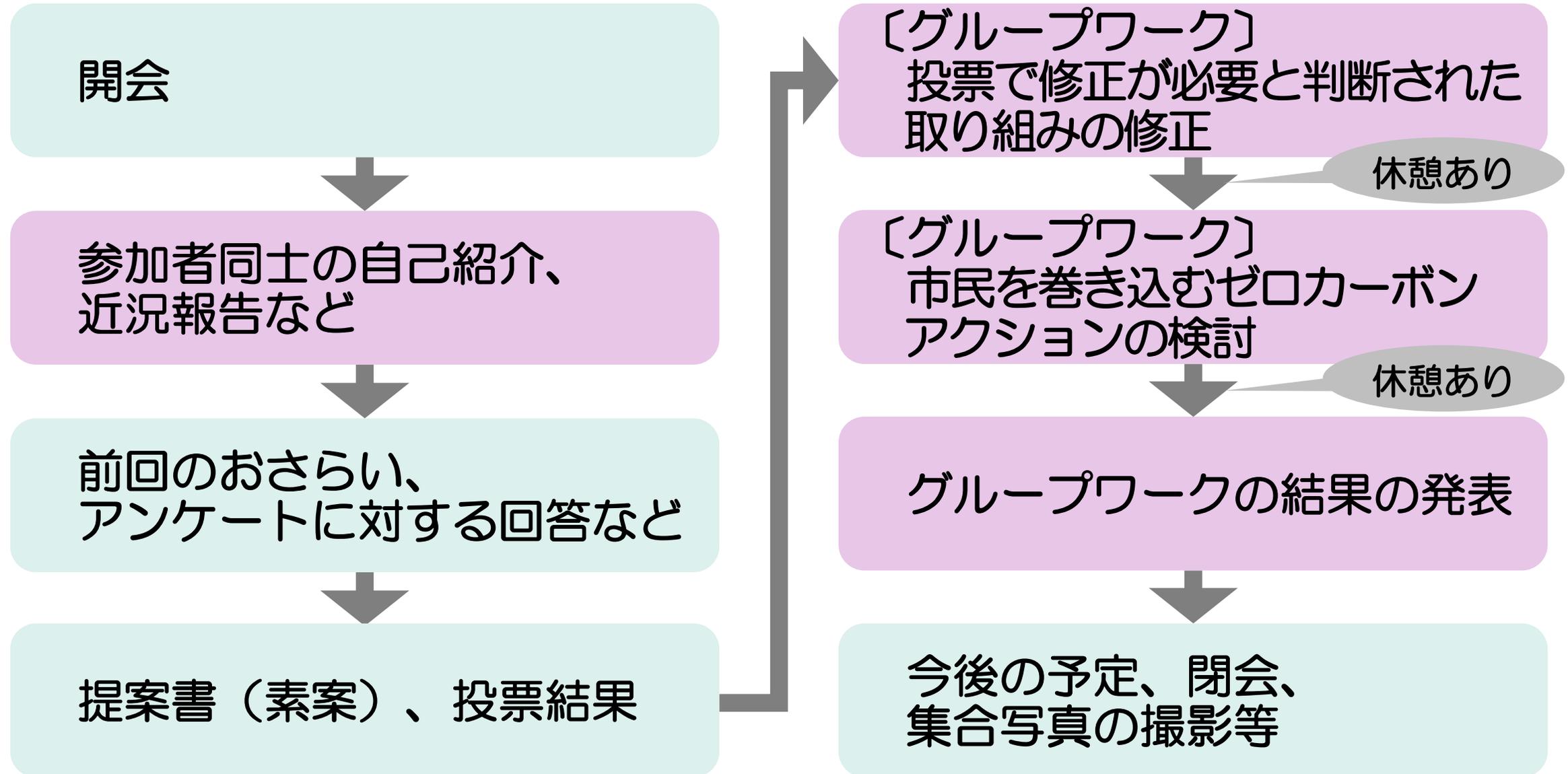
松戸市地球温暖化対策実行計画



2024年度の位置づけ







参加者同士の自己紹介
近況報告など

【お話頂く内容】

- ✓呼ばれたいお名前
- ✓会議に参加して変わったこと

など

【順番・時間】

- ✓ファシリテーターから順に時計回り
- ✓1人1分程度

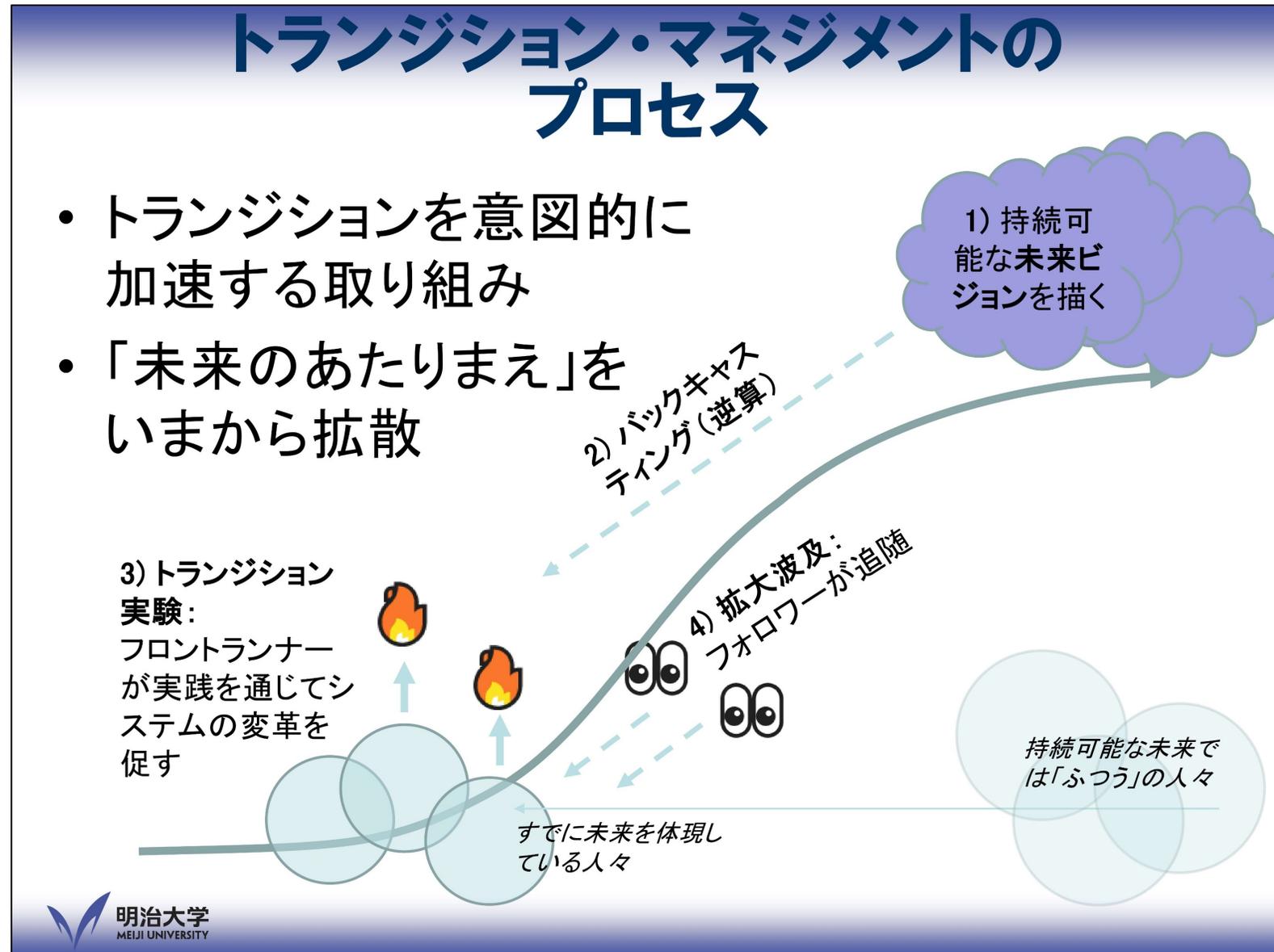
終了時刻
13:15

前回のおさらい、
アンケートに対する回答など

産業革命と化石燃料社会

- 産業革命以前は「有機物依存経済」
 - 熱エネルギーは薪、木炭などに依存
- 産業革命（石炭⇒蒸気機関）以降、化石燃料を主エネルギー源とする社会に転換
- 脱炭素＝産業革命後の現代社会から、まったく異なる次の「社会」への転換

前回のおさらい（ゼロカーボンへの転換方法）



前回のおさらい（ゼロカーボンへの転換方法）

グループワークの結果（例） 生ごみのたい肥化を普及させる

<p>【壊したいシステム】</p>	<p>【創りたいシステム】</p> <ul style="list-style-type: none">• 各家庭で生ごみがたい肥化されている• 各学校で生ごみがたい肥化されている• たい肥化した生ごみが畑の肥料として活用されている
<p>【広めたいアクション】</p> <ul style="list-style-type: none">• 学校と連携して食育を行う• 生ごみのたい肥化を実践している人や事業所を探す• 生ごみのたい肥化を実践している人や事業所にインタビューして広報松戸やSNSで発信する<ul style="list-style-type: none">• 生ごみのたい肥化の相談窓口をつくる• 生ごみのたい肥化用の箱を各家庭や各学校に配布し実証実験する• 生ごみをたい肥化して熟成し、循環させる（畑などでの活用、希望者への配布等）基本的な仕組みをつくる（千葉大学との連携等）<ul style="list-style-type: none">• 学校で環境活動をしている部活などに実践してもらい広める• モデル地区を設定して実践してもらい広める• 飲食店と連携して広める• 松戸まつり等でPRして広める <p>現在 → → → → 将来</p>	

※その他の結果は、配付資料3参照

【意見・質問の概要】

- ✓国内で、「ゼロカーボンへの転換」のボトムアップの実践をしている所はありますか。

【回答】※第5回講師（松浦氏）より〔詳細は配付資料2参照〕

- ✓明確にトランジション・マネジメントとして位置付けられた実践はありませんが、トランジションの契機となりうる実践はすでに数多く存在します（たとえば、ZEH推しのハウスメーカー、営業車にEV導入積極的な企業など）。これらの拡大波及をいかに加速させるかがトランジション・マネジメントの考え方です。
- ✓ゼロカーボンに限定しなければ、いわゆる「地方創生」でトランジションの成功事例はたくさんあります。

【意見・質問の概要】

- ✓ 次回で終了しますが、今後、実践に向けたプロジェクトチームを作り、メンバーを今回の参加者から募集してはいかがでしょうか？

【回答】 ※事務局より〔詳細は配付資料2参照〕

- ✓ ご意見を踏まえ、第6回会議のグループワークに「市民を巻き込むゼロカーボンアクションの検討」を追加しました。市民が行うアクションを検討して頂きますが、松戸市環境未来会議2024の参加者が中心となって行うアクションが拳がってくることも期待しています。
- ✓ 本会議終了後も参加者同士のつながりを維持し、新しいプロジェクトを立ち上げることもできるように、LIENで「OB・OGグループ」を立ち上げます。是非、ご登録をお願いします。

質疑応答（5分程度）

提案書（素案）、投票結果

会議の流れ

第2回

2050年ゼロカーボンシティ
まつどの姿をイメージする

第3回

ゼロカーボンに向けた取り組み
を検討する（消費編）

第4回

ゼロカーボンに向けた取り組み
を検討する（生活編）

第5回

ゼロカーボンへの
転換方法を検討する

提案書（素案）

第1章

2050年ゼロカーボンシティ
まつどの姿

第2章

ゼロカーボンに向けた
消費・生活に関する取り組み

参考資料

ゼロカーボンへの
転換を進めるためのアクション

提案書 第1章 2050年ゼロカーボンシティまつどの姿

1. エネルギー消費が少なく災害にも強い住宅が普及している街
2. 脱炭素エネルギーを自給している街
3. 物や場所をシェアする文化が定着している街
4. 3R（リデュース、リユース、リサイクル）が進んでいる街
5. 食の自給率が高く、安全な食品が手に入る街
6. 食品ロスが少なく、食品廃棄物を循環させて再利用している街
7. みどりが多く、自然が豊かな街
8. コンパクトで生活しやすい街
9. 少ないエネルギー消費で移動できる街
10. 誰もが暮らしやすい街
11. 松戸市ならではの魅力を発信している街
12. 環境への配慮が当たり前になっている街
13. 環境教育が充実し、みんなが環境問題について話し合うことができる街
14. 外部と協力・連携して環境問題に取り組んでいる街
15. 技術開発が進み、企業や大学と連携して環境問題に取り組んでいる街

提案書 第2章 ゼロカーボンに向けた消費・生活に関する取り組み

1. 消費（食以外）

- (1) 持続可能な製品を普及させる
- (2) 生産と消費の量を減らす
- (3) プラスチックの使用を減らす
- (4) リユース、リサイクルを進める

2. 食

- (1) 持続可能な食を普及させる
- (2) 食品ロスを減らす
- (3) 持続可能な食品の廃棄方法、リサイクルを進める

3. 住まいと建物

- (1) 住宅の省エネ性能をあげる
- (2) 省エネ性能の高い家電・機器を普及させる
- (3) 住宅で消費するエネルギーを脱炭素化する
- (4) 住宅内での環境に配慮した過ごし方を普及させる
- (5) 環境に配慮した事業所や店舗、公共施設を普及させる
- (6) 環境に配慮した仕事方法を普及させる
- (7) 環境に配慮した学校ルールを普及させる

4. 移動と余暇

- (1) 移動距離を減らす
- (2) 環境に配慮した移動方法を普及させる
- (3) 電気自動車等を普及させる
- (4) カーシェアリングを普及させる
- (5) 環境に配慮した運送を普及させる
- (6) 地元での余暇を普及させる
- (7) 環境に配慮した旅行を普及させる

5. ゼロカーボンに向けた普及啓発や仕組みづくり

- (1) 持続可能性について学ぶ、話し合う、発信する
- (2) ゼロカーボンに向けた仕組みをつくる

(参考) ゼロカーボンに向けた街づくり

1. 消費（食以外）

- (1) 製品を修理しながらながく使う
- (2) 製品のレンタル、サブスクリプション、シェアリングを普及させる
- (3) プラスチックの使用を減らす
- (4) リユース、リサイクルを進める

2. 食

- (1) 食の地産地消を進める
- (2) 食品ロスを減らす
- (3) 生ごみのたい肥化を普及させる

3. 住まいと建物

- (1) 住宅の省エネ性能をあげる
- (2) 住宅の寿命を延ばす
- (3) 再生可能エネルギーを普及させる
- (4) 水素利用を普及させる

4. 移動と余暇

- (1) コンパクトな街を創る
- (2) 自転車での移動を増やす
- (3) 環境に配慮した利用しやすいバスを普及させる

提案書のとりまとめに向けて、これまで挙げられた取り組みのなかで修正が必要なものを把握するための投票を行いました。

【対象】

提案書第2章の取り組み（279個）

【選択肢】

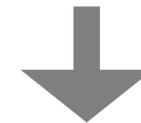
- ① 提案書に残す
- ② 提案書に残すには修正が必要
- ③ 判断がつかない

【投票者数】

33名

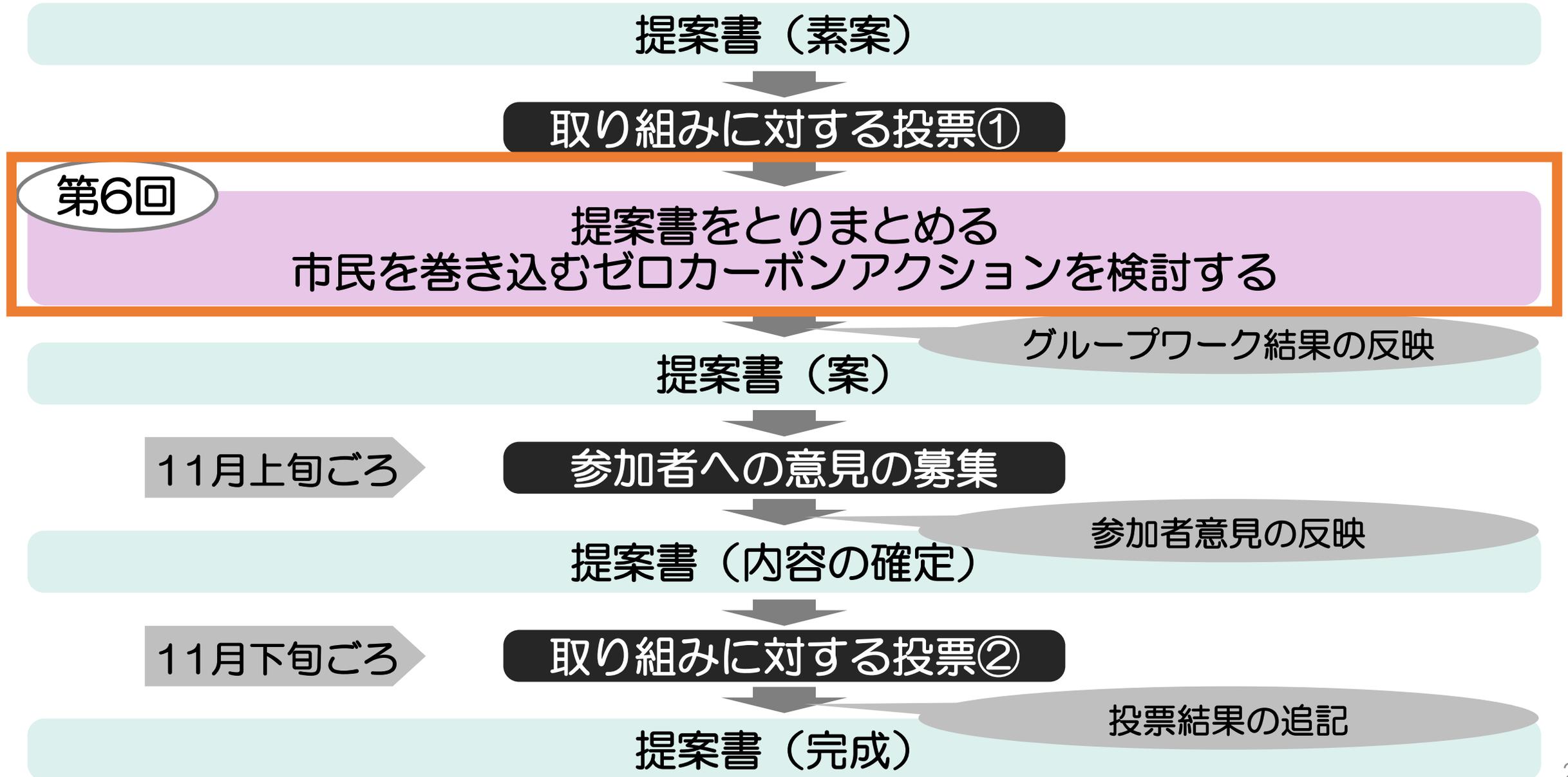
【投票結果】

- 「①残す」が50%未満 ⇒ 54個
- 「①残す」が50%以上だが、「②修正」が20%以上 ⇒ 4個



279個の取り組みのうち、58個は修正又は削除が必要と判断
※詳細は配付資料4参照

〔グループワーク〕
投票で修正が必要と判断された
取り組みの修正



グループワークの検討テーマ

1. 消費（食以外）

- (1) 持続可能な製品を普及させる
- (2) 生産と消費の量を減らす
- (3) プラスチックの使用を減らす
- (4) リユース、リサイクルを進める

2. 食

- (1) 持続可能な食を普及させる
- (2) 食品ロスを減らす
- (3) 持続可能な食品の廃棄方法、リサイクルを進める

消費、食グループ

5. ゼロカーボンに向けた普及啓発や仕組みづくり

- (1) 持続可能性について学ぶ、話し合う、発信する
- (2) ゼロカーボンに向けた仕組みをつくる

(参考) ゼロカーボンに向けた街づくり

3. 住まいと建物

- (1) 住宅の省エネ性能をあげる
- (2) 省エネ性能の高い家電・機器を普及させる
- (3) 住宅で消費するエネルギーを脱炭素化する
- (4) 住宅内での環境に配慮した過ごし方を普及させる
- (5) 環境に配慮した事業所や店舗、公共施設を普及させる
- (6) 環境に配慮した仕事方法を普及させる
- (7) 環境に配慮した学校ルールを普及させる

4. 移動と余暇

- (1) 移動距離を減らす
- (2) 環境に配慮した移動方法を普及させる
- (3) 電気自動車等を普及させる
- (4) カーシェアリングを普及させる
- (5) 環境に配慮した運送を普及させる
- (6) 地元での余暇を普及させる
- (7) 環境に配慮した旅行を普及させる

住まいと建物、移動と余暇グループ

投票の結果

主体	取り組み	提案書に残す	提案書に残すには修正が必要	判断がつかない
市民	① 環境や社会に配慮した製品やサステナブル・ラベル付きの製品を買う(少し高くても納得できるもの、理由を説明できるものを買う)、製品の良さを発信する	61%	30%	9%
	② 地元で作られた製品を買う(素材や製品の輸送によるCO2排出量が少ない製品を買う)、製品の良さを発信する(ブランディングに貢献する)	79%	15%	6%
	③ 企業に対して製品の機能などの面で過剰な要求をしない(製品にCO2削減を求めない)		12%	36%
事業者	① 環境に配慮した製品やサステナブル付きの製品を買う		21%	9%
	② 調達方針を公開する(調達方針が分かっていることを分かりやすく示す)		6%	15%
	③ 生産性を上げて賃金を上げる、健全な経営により	45%	12%	43%

下記の取り組みにハッチ

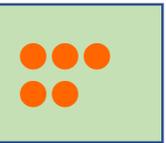
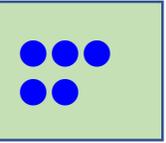
- 「①提案書に残す」が50%未満
- 又は
- 「②提案書に残すには修正が必要」が20%以上

ハッチがついた取り組み



- 内容の修正
又は
- 取り組みごと削除

主体	取り組み	提案書に残す	提案書に残すには修正が必要	判断がつかない
市民	① 環境や社会に配慮した製品やサステナブル・ラベル付きの製品を買う(少し高くても納得できるもの、理由を説明できるものを買う)、 <u>製品の良さを発信する</u>	61%	30%	9%
	② 地元で作られた製品を買う(素材や製品の輸送によるCO2排出量が少ない製品を買う)、製品の良さを発信する(ブランディングに貢献する)	79%	15%	6%
	③ 企業に対して製品の機能などの面で過剰な要求をしない(機能が多すぎて生産や使用の際に必要な以上にCO2を排出しないようにするため)	52%	12%	36%
事業者	① 環境や社会に配慮した製品やサステナブル・ラベル付きの製品を生産する、ラベルを見やすく表示する	70%	21%	9%
	② 調達や生産等の過程、CO2削減量等をWEB等で公開する、環境や社会に配慮するために適正なコストがかかっていることを分かりやすく示す	79%	6%	15%
	③ <u>生産性を上げて賃金を上げる、健全な経営により持続可能な製品を開発する</u>	45%	12%	42%
	④ 消費者の要望やニーズを理解して製品を開発し、消費者が求めているものを求めているだけ売る	24%	36%	39%
	⑤ 消費者に分かりやすいサステナブル・ラベルや基準をつくる、PRする	73%	18%	9%
	⑥ 行政にサステナブル・ラベル認証への支援や助成を要請する	82%	15%	3%
	⑦ 環境や社会に配慮した製品をつくるための技術開発を進める	73%	15%	12%
	⑧ 販売店などで環境や社会に配慮した製品やサステナブル・ラベル付きの製品を分かりやすく紹介して売る	76%	18%	6%
	⑨ 販売店などで環境や社会に配慮した製品やサステナブル・ラベル付きの製品を買った人にポイントをつける	67%	18%	15%
	⑩ 地元で作られた製品を売る(素材や製品の輸送によるCO2排出量が少ない製品を売る)、ブランディングする	82%	6%	12%
	⑪ 環境や社会に配慮した製品やサステナブル・ラベル付きの製品を売っている販売店のマップをつくる	55%	27%	18%



【まずは個人で】

- ①ハッチがついた取り組みを読み、
「修正したい」か「削除したい」かを考える

- ②修正したい場合、その内容をふせんに書く
 - ✓1枚にひとつずつ書く
 - ✓伝えたいことが分かるように書く
(例：「●●を▲▲する」)

【次はグループで】

③ふせんに書いた内容を貼りながら皆さんにお話する

- ✓ 1人ずつ順番に
- ✓ 取り組みの文章の近くに貼る

④自由に意見交換する

- ✓ いろいろな人の意見を聞きながら、グループとしての考えをまとめていく
- ✓ まとめた内容が分かるようにワークシートを仕上げる

※ 取り組みごと削除したほうが良いという結論が出た場合は、
取り組みに×印をつける

- ✓ 対話はキャッチボール。
短く話そう、よく聴こう！
- ✓ 途中で遮らない。最後まで聴こう！
- ✓ 違って当然。違いこそ可能性！
- ✓ 寄り道もOK！
でも、何の話し合いが忘れずに。



【まずは個人で】

- ①ハッチがついた取り組みを読み、
「修正したい」か「削除したい」かを考える
- ②修正したい場合、その内容をふせんに書く

【次はグループで】

- ③ふせんに書いた内容を貼りながら
皆さんにお話する
- ④自由に意見交換する

消費、食グループ
⇒6枚

住まいと建物、
移動と余暇グループ
⇒5枚

終了時刻
14:45

※時間配分の目安はワークシート右上参照

休憩（14:55まで）

※お菓子をお配りします。
ご自由にお召し上がりながらご歓談ください。

〔グループワーク〕
市民を巻き込む
ゼロカーボンアクションの検討

ゼロカーボンへの転換を進めるための活動を考える (特に、市民として来年度重点的に進めるべき活動)

- ✓ 第5回に、ゼロカーボンへの転換を進めるための活動がいくつか挙がってきたと思います。
- ✓ ただ、おそらく市民として進めるべき活動は、なかなか思いつかなかったのではないかと思います。
- ✓ 他のグループの結果も見ながら、市民として来年度重点的に進めるべき活動を考えてみていただきたいです。

市民を巻き込むゼロカーボンアクション (特に、市民として来年度重点的に進めるべき活動)

- ✓ 行政のアクションではなく、市民が主体となるアクションを考えます。
- ✓ 「松戸市環境未来会議参加者としてのアクション」、「全市民が行うアクション」、どちらを挙げて頂いても構いません。
- ✓ 検討していただいたアクションのうちいくつかは、実際に松戸市役所や市民団体の支援を受けながら来年度に実行していくこととなります！

グループワークの検討内容

提案書（素案） 参考資料の結果（例）

生ごみのたい肥化を普及させる

<p>【壊したいシステム】</p>	<p>【創りたいシステム】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 各家庭で生ごみがたい肥化されている • 各学校で生ごみがたい肥化されている • たい肥化した生ごみが畑の肥料として活用されている
<p>【広めたいアクション】</p> <p>学校と連携して食育を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> • 生ごみのたい肥化を実践している人や事業所を探す • 生ごみのたい肥化を実践している人や事業所にインタビューして広報松戸やSNSで発信する <ul style="list-style-type: none"> • 生ごみのたい肥化の相談窓口をつくる • 生ごみのたい肥化用の箱を各家庭や各学校に配布し実証実験する • 生ごみをた <p>組みを</p> <ul style="list-style-type: none"> • 学校 • モテ • 飲食 • 松戸 	

✓このあたりに位置付けられるアクションを検討する

✓「創りたいシステム」と「壊したいシステム」のギャップを埋めるために必要となる、ボトムアップの実践を通じた「賛同者」「フォロワー」の増加（拡大波及）に繋がるアクションを意識する

現在



将来

※その他の結果は、配付資料3参照

【まずは個人で】

①配付資料3「参考資料」を参考に、市民を巻き込むゼロカーボンアクションを考える

✓消費は？

✓食は？

✓住まいと建物は？

✓移動と余暇は？

など

②考えたら、その内容をいせんに書く

✓1枚にひとつずつ書く

✓伝えたいことが分かるように書く（例：●●を▲▲する）

【次はグループで】

③ふせんに書いた内容を貼りながら皆さんにお話する

- ✓ 1人ずつ順番に
- ✓ 最初は1人2分程度を目安に
- ✓ 似たようなアクションが出てきたら近くに貼る

④自由に意見交換する

- ✓ いろいろな人の意見を聞きながら、市民を巻き込むゼロカーボンアクションを膨らませていく
- ✓ 追加したいアクションがでてきたらふせんに書いて貼る

時間：1グループ3分30秒以内ずつ。

方法：模造紙の前で発表。1人でも複数人でもOK！

発表いただく内容：

- ✓ 来年度に行いたいアクション。1つでも複数でもOK！
- ✓ 松戸市環境未来会議の参加者が主体となるアクションの場合は、意気込みや呼びかけ！

✓発表者を決める

• • 1分

①配付資料3「参考資料」を参考に、
市民を巻き込むゼロカーボンアクションを考える

②考えたら、その内容をいせんに書く

} 併せて3分

③いせんに書いた内容を貼りながら皆さんにお話する

• • 2分×人数

④自由に意見交換する

• • 約40分

⑤いせんの位置などを整理して発表の準備をする

• • 約5分

終了時刻 16:00

グループワークの結果の発表

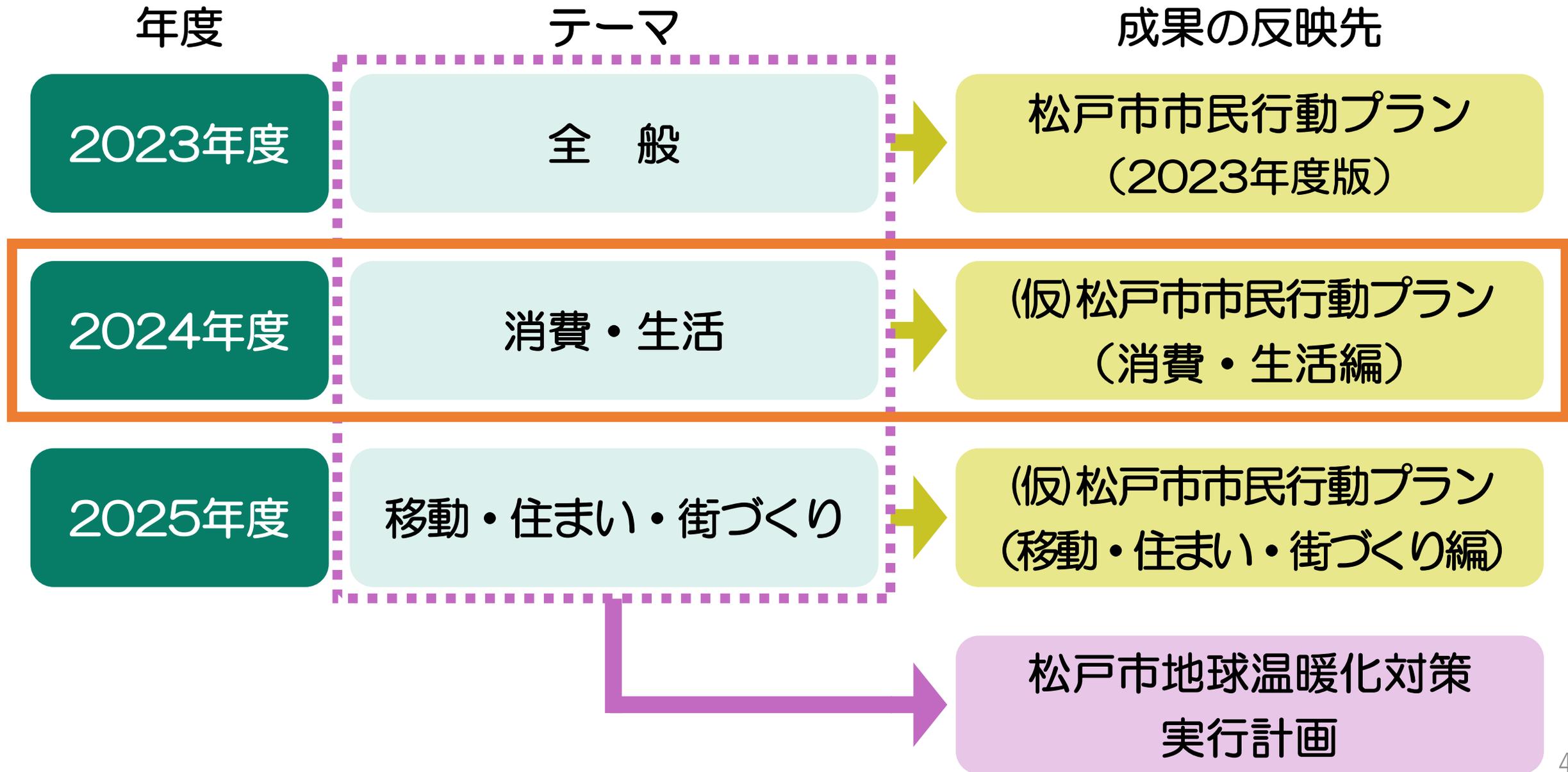
- ✓ 「消費、食-1」から
「住まいと建物、移動と余暇-3」の順
- ✓ 1グループ3分30秒以内ずつ
(下記のプレートを出します)

残り30秒

終了

今後の予定





参加者同士の交流、情報交換、
新たな活動の立ち上げ



OB・OG会LINEグループを
作りました（配付資料1裏面参照）

活動団体との連携、参加



活動団体リストをお配りしました
（配付資料5参照）

松戸市環境未来会議2025への
参画



「移動・住まい・街づくり」に関する
取り組みを募集する機会を作ります
（2月ごろ連絡）

まとめと講評

松戸市からの クロージングメッセージ

閉会、事務連絡、集合写真の撮影

- ✓ アンケートにご協力をお願いします。
(スマートフォン利用の場合の回答期限：10月23日)
- ✓ 名札は外してテーブルに置いたまままでお願いします。
- ✓ この場で報酬をお渡しします。
おかけになったままお待ちください。
受領証への記入をお願いします。
- ✓ 集合写真をとりますので、アンケートへの記入、報酬の受け取りが終わった方から順に、貴重品を持って会場前方へ移動をお願いします。
- ✓ この会場は、18:00までご利用いただけます。
参加者同士の交流の場としてご利用ください。